

02—L—2

(読解, 語い)

No.

国語 (2)

(せつめい)

これは、^{しょうがっこう}小学校でみなさんが、どのくらい^{こくご}国語について^{べんきょう}勉強したかを^{しら}調べるテストです。^{もんだい}問題は^{ねん}1年から^{ねん}6年までかかれています。が、^{ねん}1年の^{もんだい}問題からはじめましょう。

(ちゅうい)

1. どの^{もんだい}問題もよく^{かんが}考えてやりましょう。
2. わからない^{もんだい}問題には？をつけてとばして、^{もんだい}つぎの問題をやりましょう。
3. 5～6^{ねんせい}年生は、^{こたえ}答をすべて^{かいとうようし}解答用紙にかきましょう。

小学校

学年

クラス

出席番号

性別

1. 男

2. 女

(○をつけてください)

かぶを おじいさんが ひっぱって、

おじいさんを おばあさんが ひっぱって、

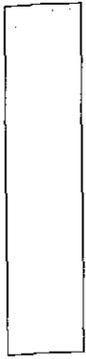
おばあさんを まごが ひっぱって、

まごを いぬが ひっぱって、

いぬを ねこが ひっぱって、

ねこを ねずみが ひっぱって、

「うんとこしょ、どっこいしょ。」



かぶは ぬけました。

うえの おはなしを よんで つぎの もんだいに
こたえましょう。

(1) おばあさんは だれを ひっぱり
ましたか。

こたえ

(2) いぬを ひっぱったのは だれ
ですか。

こたえ

(3)  のところに どんな ことばを
いれたら よいですか。

こたえ

しゃぼんだま

いもうとど、

しゃぼんだまを して あそんだ。

大きな しゃぼんだまが できた。

いもうとどの かおが うつつた。

青^{あお}や きいろや ピンクの

おけししょうを した かおに 見^みえた。

はなが ゆがんで、

おもしろい かおに なった。

わたしが わらったら、

しゃぼんだまが われた。

いもうとどの かおも われた。

うえの しを よんで つぎの もんだいに
こたえましょう。

(1) いもうとどの かおは どこに うつつたの
ですか。

(2) だれの かおが おもしろい かおに な
ったの ですか。

こたえ

3

() のなかに うれしい ことばを いれましょう。
 かんじでも ひらがなでも よいです。

(1) ハーモニカ、ピアノ、たいこ、ラッパ などを
 ひとまとめにして () と います。

(2) まさこさんが まいにち べんきよう してい
 るあいだ まさこさんの おとうさんは 会社かいしゃ
 で () を しています。

(3) ミキサー車しゃの うしろには ぐるぐる
 () る 大きな きかいが ついています。

(4) パン、チョコレート、ジュース、コーヒーなど
 は () から きた ことばです。

4

つぎの ことばの はんたいの いみの
 ことばを () のなかに かきましよう。
 かんじでも ひらがなでも どちらでも
 よいです。

(1) 左ひだり
 |
 ()

(2) 北きた
 |
 ()

(3) 少女しょうじょ
 |
 ()

つぎの ぶんのうち が 書いてある こと
 ばのいみは どれですか。ただしいもの 一つを○
 で かこみましよう。(五、六年生は、正しい答の記
 号を解答用紙のそのらんに かきましよう。)

(1) また あした おもしろい おはなしを
 してください。

- | | |
|----------|----------|
| 1. かなしい | 2. やくにたつ |
| 3. たのしくて | 4. つまらない |

(2) はしご車しゃには うえのほうに のびる
 はしごが ついて います。

- | | |
|---------|-----------|
| 1. うごく | 2. まわる |
| 3. のんびり | 4. ながく なる |

(3) 「かえるくん どうして きみ ずっと
 まどの 外そとを みているの」と がまくん
 が たずねました。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. いいました | 2. ききました |
| 3. はなしました | 4. こたえました |

(4) 白しろい おさららに のせた 目玉めだまやきは
 金色きんいろに かがやいて います。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. まぶしく ひかって | 2. いろが ついて |
| 3. やけて | 4. きれいに なって |

(5) きみが みたことを くわしく はなし
 て ください。

- | | |
|----------|--------------|
| 1. おもしろく | 2. こまかいところまで |
| 3. かんたんに | 4. おおきな こえて |

つぎの ぶんを よみ もんだいに こたえましょう。

さか立ちきようそう

「さか立ちきようそうしないか。」

と、おにいさんにいったら、

「よし、やろう。長くやってたほうがかちだ。」

と答えた。

ぼくのへやのかべのところまでやることになった。

「まけないぞ。」と、ぼくは思った。

「よいいどん。」

とごうれいをかけて、ひよいと足を上げた。

はじめは足がくらくらして、たおれそうになったけど、つま先

がうまくかべについた。

「よし、うまくいった。」と、おにいさんを見ると、目をつぶって

だまっている。「おにいさんは、何を考えているのだろう。」と思

った。

少したつと、手がしびれて、いたくなってきた。つかれてうご

かなくなりそうだ。あせも出てきた。

おにいさんを見ると、つかれたようすもなく、ただちよつとあ

せをかいているだけだった。「よし、おにいさんにならな

ってやる。」と、ぼくは心の中でいった。

そのうちに、あせがながれて、たたみについている手の下がぬ

れてきた。顔は、もえるようにあつくなつた。

「ううん。」と、ぼくは、はをくいしばった。顔は、ますますあつ

くなってきた。

「もうだめだ。」

ドデン。とうとう、ぼくはたおれてしまった。すると、おにいさんは、さか立ちをやめて、

「どうだ、まいったか。」

と、いばった声でいった。ぼくは、

「まいった。」

といってしまった。

(1) つぎの「」の中の ことばは だれの ことばですか。

()のなかの「おにいさん」か、「ぼく」のどちらかに○をつけましょう。

(あ) 「さか立ちきようそう しないか」 (おにいさん、ぼく)

(い) 「よし やろう。長く やったほ」 (おにいさん、ぼく)

(う) 「よし うまくいった。」 (おにいさん、ぼく)

(え) 「もう だめだ。」 (おにいさん、ぼく)

(お) 「どうだ、まいったか。」 (おにいさん、ぼく)

(か) 「まいった。」 (おにいさん、ぼく)

つぎの ぶんを よみ もんだいに こたえましょう。

たんぽぽの ちえ

春はるになると、たんぽぽの 黄色きいろい きれいな 花はなが
さきます。

二、三日 たつと、その 花はなは、しぼんで、だんだんく
ろつぽい 色いろに かわって いきます。そうして、たんぽ
ぽの 花はなの じくは、ぐったりと 地ちめんに たおれてし
まいます。

けれども、たんぽぽは、かれて しまったのではありません
せん。花はなと じくを しずかに 休やすませて、たねに たく
さんの えいようを おくつていのです。こうして、た
んぽぽは、たねを どんどん 太かどらせるのです。

やがて、花はなは すっかり かれて、その あとに、白しろい
わた毛けが できて きます。

この わた毛けの 一つ一つは、ひろがると、ちようどら
つかさんのようになりす。たんぽぽは、この わた毛け
に ついて いる たねを、ふわふわと とばすのです。

この ころに なる、それまで たおれていた 花はなの
じくが、また おき上あがります。そうして、せのびを す
るように ぐんぐん のびて いきます。

(1) たんぽぽの 花はなの じくは どうして ぐったりと
地ちめんに たおれるのでしよう。

こたえ

(2) わた毛けは ひろがると どのように なりますか。

こたえ

三つ四ねんのもんだい

8

() の中にもつとも正しいことばをいれましょう。
 かんじでもひらがなでもよいです。

(1) お母さんが こいしくなった トッコは、緑の山に
 () っ て 大きな声で 「ママーッ」ときけん
 だ。すると 「ママーッ」という 「やまびこ」が もどつて
 きました。

(2) 池の まん中に 石を ひとつ 投げこみました。する
 と 水の水ができて それは だんだん まわりに
 () っ て いきました。

(3) カブトガニは、 () が たいへん おとな
 しく 海の底で ひっそり 生活して いました。

(4) わたしたちの 体の 表面を おおっている 皮はわ
 たしたちの 体を () るのに 大切な はた
 らきをしています。

(5) キョウリュウは、二億年も前、地球の主人公として た
 いへん () えました。

9

次の文をよんで……がひいてあることばと反
 対の意味のことばを () の中にいれましょう。

(1) 木の葉を かんさつするときには、葉の うらでは
 なく 葉の () がある 「葉脈」という
 すじを よくみてごらんなさい。

(2) 夜 にぎやかな通りを 通るのは なんでもあり
 ませんが、 () しい林の中の道を 通
 るのは、たいへんこわいです。

(3) ゾウ、クジラ、ツバメ、チョーチョは 動物のな
 かまですが、サクラ、ヒマワリ、タンポポなどは
 () の なかまです。

(4) この間 運動会で マラソンがありました。
 () スタートした時は みんな元氣い
 っぱいはりきっていましたが、最後にゴールに入っ
 た時は みんななくたくたでした。

次の文の……が ひいてある ことばの いみはどれですか。もつとも 正しいもの 一つを ○で かこみましよう。(五、六年生は、正しいものの番号を解答用紙にかきましよう。)

(1) かんさつするときは、大事なことと 思うことは わすれないように すぐ ノートに 書いて おきましよう。

- | | |
|--------------|----------|
| 1. わすれてはいけない | 2. 大きい |
| 3. たいへんな | 4. たいせつな |

(2) 人にお礼を 言うときには それに ふさわしいことばづかいがあります。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. つかってはいけない | 2. よくあっている |
| 3. つかってよい | 4. よくあわない |

□のなかの 四つのことばのうち どの ことばが いちばんよいでしょう。一つを ○で かこみましよう。

空が きゆうに くもったかと 思うと、

- | | |
|----------|---------|
| 1. だんだんと | 2. やつと |
| 3. とうとう | 4. たちまち |

雨が ふりはじめた。

つぎの 詩を よんで もんだいに こたえましよう。

顔ふき

お母さんがおこつているとき、
ぼくの顔をふくとき、
ひねるようにふく。
お母さんがわらつているとき、
ぼくの顔をふくとき、
なでるようにふく。
人間の心は動作にも出るんや。

(もんだい)

「人間の心は動作にも出るんや」と書いてありますが、この詩では、お母さんの心が、どういう動作に出ていますか。次のうち、二つに○をつけなさい。

- (1) お母さんがおこる動作
(2) ひねるようにふく動作
(3) お母さんがわらう動作
(4) なでるようにふく動作

つぎのぶんをよみ もんだいにこたえましょう。

- ㊦ チンパンジーは、アフリカの森林や木の多い草原に住んでいます。たいいてい四十頭ぐらいが、ひとまとまりになって生活しています。チンパンジーの主な食べ物、くだものと木の葉ですが、こん虫や肉も食べます。こん虫の中でも、シロアリが大すきです。
- ㊧ シロアリは、どうのような形をしたありづかの中に住んでいます。このありづかはたいへんかたいので、チンパンジーが手でこわそうとしても、こわれません。
- ところが、雨がふる季節になると、シロアリは、ありづかのあちこちに小さな出口を作ります。これは、ありづかの中で育つたたくさんさんのシロアリが、べつの場所にうつつていくためのじゅんびなのです。
- ㊨ チンパンジーは、このありづかの小さなあなを見つけると、近くの木の皮をはいできて、歯と手をうまく使つて、長さ二十センチメートルぐらいの細いぼうを作ります。そして、そのぼうを、ありづかのあなにさしこみます。シロアリたちは、てきが入つてきたと思つて、大ききでぼうにかみつきます。しばらくすると、チンパンジーは、ぼうをそつと引き出して、いっぱいしているシロア리를ぺろりと食べるのです。チンパンジーは、何度もこれをくり返します。
- ㊩ チンパンジーは、このぼうを作るのに、しなやかで強い木の皮をさがします。そうでないと、あなにさしこむときに、とちゅうでおれたり曲がったりして、シロアリの所までとどかないからです。

- (1) 上の㊦㊧㊨の文章にあう題(小見出し)を次の番号の中からえらびましょう。

㊦ () () () () () () () () () ()

1. チンパンジーのシロアリの食べ方
2. シロアリについて
3. チンパンジーの作るぼう
4. チンパンジーの生活

- (2) チンパンジーは、どうしてしなやかで強い木の皮をさがすのでしょうか。

こたえ

つぎのぶんをよみ もんだいにこたえましよう。

かんばんの上では、みんなが、さると船長のむすこの追いかけてつこをながめてわらつていましたが、少年がロープを放し、両手をふらふらさせながら、横げたの上をわたり始めたのを見ると、おそろしさに、はつと息をのみました。

足でもふみ外そうものなら、かんばんにたたき付けられて、粉みじんです。いや、たどえ足をふみ外さないとしても、横げたのはしまで歩いていってぼうしを取り、後もどりしてマストまで帰り着くのは、むずかしいでしょう。

みんなは、だまつて、どうなることかと少年を見つめていました。

不意に、だれかが、おそろしきあまり、あつと声をあげました。そのさげびに、少年は、はつとわれに返り、下をのぞきこみました。そして、ぐらぐらと足元をふらつかせました。

そのとき、少年の父親である船長が、船室から上がってきました。船長は、かもめをうつために鉄ぼうを持っていましたが、マストの上のむすこを見ると、いきなりむすこに鉄ぼうを向けてさげびしました。

「海へ、海へすぐとびこむんだ。うつぞ。」

少年は、ふらふらと足元をふらつかせました。なんのことやら分からないのです。

「とびこめ。でないとうつぞ。一、二。」

そして、父親が「三。」ときけぶのといつしよに、少年は、まつさかさまにとびこみました。

大ぼうのたまのように、少年の体が、海の中へズボツともぐりこみました。

(1) 少年が横げたの上をわたりはじめたのを見て、

みんなが、はつと息をのんだのはなぜでしょう。

その理由の正しいものを次の中から選び、一つに

○をつけましよう。

(五く六年生は、その番号を、解答用紙のそのらんにかきましよう。)

1. 少年が横げたのはしまで歩いていってぼうしを取り、後もどりしてマストまで帰り着くのはむずかしいと思ったから。

2. 少年が、はつとわれに返り、下をのぞきこんだから。

3. 少年に船長が鉄ぼうをむけたから。

(2) 船長は、なぜむすこに鉄ぼうを向け「海へ、海へすぐとびこむんだ。うつぞ。」ときけんだのですか。

つぎのぶんをよみ もんだいにこたえましょう。

「これは、レモンのおいですか。」

ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。

「いいえ、夏みかんですよ。」

シグナルが赤なので、ブレーキをかけてから、運転手の松井さんはここにこして答えました。

「ほう、夏みかんでのは、こんなにおうものですか。」

「もぎたてなので。きのう、いなかのおふくろが、速達で送ってくれました。においまでわたしにとどけたかったのでしよう。」

「ほう、ほう。」

「あまりうれしかったので、いちばん大きいのを、この車にのせてきたのですよ。」

シグナルが青になると、たくさんの車がいっせいに走りだしました。その大通りを曲がって、細いうら通りに入った所で、しんしはおりていきました。

(1) 「ほう、ほう。」といったのはだれですか。

こたえ

(2) 「あまりうれしかったので、いちばん大きいのをこの車にのせてきたのですよ。」といったのはだれですか。

こたえ

五ノ六ねんのもんだい

16

() の中にもつとも正しいことばをいれましょう。

(1) じいさんは長年の () とかんからガ

ンはいちばん最初にとび立ったものの後につれて飛ぶということをしていました。

(2) テレビの画面や映画のスクリーンに映し出される画像や写真のことを () といいます。

(3) アメリカ大陸を () したのは、コロ

ンブスです。

(4) この図書室を利用できる人はこの学校の生徒に () ります。

(5) 今日、三時から図書委員会をひらきます。買ってもらいたい本についての、アンケートをまだ出していない組は、図書委員が () をも

つてアンケートを集めてもってきてください。

(6) 足尾銅山から流れた鉱毒によって、渡良瀬川の流域では、田や畑の作物がみな枯れてしまい、

() たちの生活は日々苦しくなった。

(7) 町の青年たちが力を合せてひとりぐらしで

ねたきりである()を世話している

という ニューズに心をうたれた。わたくしの家にも七十才の祖母がいます。

(8) マラソンをしていた太郎は途中で足がいたくなつてやめようと思つたが「がんばれ！」と自分を

()してゴールまで走つた。

()のひいてあることばと反対の意味のことばを

(1) 蜜蜂は益虫だがはえは()です。

(2) 国民ははたらく権利をもっているが税金を()はらう()がある。

次の文の()がひいてあることばの意味はどれですか。もつとも正しいもの一つを○でかこみましよう。

(1) 級の友だちは正男くんがおじいさんに本当のこと話を話したことを非難した。

- | | |
|----------|---------|
| 1. ほめた | 2. せめた |
| 3. よろこんだ | 4. ゆるした |

()の中のことばからその文にもつともふさわしいことばを一つえらび○でかこみましよう。

(1) 江戸時代に富士山が噴火した時、江戸の人々はいつ

たいどこの山焼けだろうと

- | | |
|--------|--------|
| 1. ほめた | 2. 思わず |
| 3. もつと | 4. ただ |

不思議がるだけでした。

つぎの詩をよみ 下のもんだいにこたえましょう。

蛇

落石におびえつつハーケンを打ち
雷鳴におののく手でザイルをたぐり
汗にまみれてよじ登った
山

いつもはおとなしいが

暴れだしたら手のつけられない

大きな牛

ぼくらはその肩にとまった

蛇みたいなものだ

けれど今ぼくらの中を

まじりつけなしの風が吹きぬけ

このよろこびのひととき

蛇のころは山よりも大きくなる

岩燕の歌

若さのこだま

いかにも地球に腰かけて

いっぶくしているぼくらのいのちだ。

(1) (あ)の「大きな牛」は、ここでは何をあらわしているのですか。

(2) この詩の題名は「蛇」となっていますが、この蛇はなにをたとえているのですか。

つぎの文をよみ もんだいに こたえましょう。

一八七〇年に、フランスとプロシアとの間で、また戦争が始まった。デュナンは、フランス赤十字の人々とともに戦場に向かった。

あるとき、デュナンは、きずついた人たちを、川を下って安全な場所に導くことになった。対岸からは、ひっきりなしにプロシア軍のほうだんが飛んでくる。四せきの小船に乗った人々の顔は、おそろしさに青ざめていた。フランス軍の兵士たちは、口々にさげんだ。「あぶない。やめる。命をすてに行くようなものだぞ。」

しかし、先頭の小船に乗りこんだデュナンは、手に持った赤十字の旗を信じていた。四せきの小船は、川岸をはなれた。フランス軍の兵士たちは、かたずを飲んで見守った。デュナンは、強い願いをこめて、大きな赤十字の旗を右に左にゆつくりとふり続けた。すると、今までさかんに鳴りひびいていたプロシア軍のほう声がびたりとやんだ。静まり返った川を、四せきの小船は、静かに進んでいった。

(1) フランスの兵士たちは、どうして口々に「あぶない。やめる。命をすてに行くようなものだぞ。」とさげんだのですか。

こたえ

(2) 「デュナンは、手に持った赤十字の旗を信じていた」と書いてありますが、デュナンは、どのように信じたのですか。次のうち、もつとも正しいと思うもの一つに○をつけましょう。

1. 神さまが、必ず赤十字の旗をまもってくれる。
2. 赤十字の旗をもつていれば、大ほうのたまはぜつたいにあたらぬ。
3. 赤十字の旗をもつていれば、誰かがかならず助けにきてくれる。
4. 赤十字の旗をもつていれば、プロシア軍も大ほうをうつつのをやめる。

「同感できて、もう一度考えるがいい。同感できなくても、もう一度考えるがいい。」——これは、中国の古い書物に出てくる言葉です。

我々は、さまざま意見に対して、そのときのどっさの感じだけで賛成することがある。遊ぶときとか、気軽なことならそれでもいいが、大切な問題については、その主張にたとえ賛成のときでも、もう一度よく考えてから賛成するといった態度こそ大切であろう。

(あ) こんなことは分かり切ったことだが、いざとなると、なかなか実行できないものである。特に、大勢の人が賛成しているときなど、ついふらふらと自分も巻きこまれやすい。そのとき、たとえ自分ではよく考えたつもりでも、

(い) いざ決定のときは、もう一度考えてみることに——このしんちような態度を身に付けたいものである。

なぜなら、賛成したことに對しては、各人が責任を持たなければならぬからだ。自分の賛成したことを、自分ほどの程度に実行できるか。そのときの自分のなまじうはん囲を十分考え、どうしても自分は実行できないと思つたら、なぜかと自分に問うてみるのだ。必ずどこかに無理があるにちがいないからだ。その無理をごまかしておくと、人間は、体裁屋かぎせん者になってしまう。

(1) (あ)の「こんなことは」とはどんなことですか。それをあらわしている文の右側に——をひきましよう。

(五)六年生は、その文を解答用紙に書きましよう。

(2) (い)のところに「いざ決定のときは、もう一度考えてみることに——このしんちような態度を身に付けたいものである」とかかれています。なぜ、このしんちような態度を身に付けたいのでしようか。

下に「またとない天敵」の文章の段落が、めちやくちやな順にならべてあります。

このお話は、左のらんに示すように、(1)では始まり、(9)で終わりますが、その途中はどういう順番に文章はつづいていくのでしょうか。よく考えて、正しいまとまった文章になるように、左のらんに、下の文の記号を入れてください。(え)と(お)はいれてあります。のこりをいれましょう。

ヒキガエルは、体の色や形が気味悪く、あまり気持ちのいい動物ではない。だから、人にきらわれることが多い存在なのだが、本当は人間にとつてたいへん役に立つ動物なのである。

(え)

(お)

ヒキガエルはすがた形がみにくいだけでなく、人間に不幸をもたらすえんぎの悪い動物だという俗説が古くからあった。しかし、本当は、さまざまな害虫に対するまたとない天敵であつて、人間に幸福をもたらす動物なのである。

(あ) さらに研究を進めると、ヒキガエルがたいへんすばらしい射手であることが分かった。ふつう、ヒキガエルは、動いている生きた動物だけをとり、死んだ動物には見向きもしない。目がその場の様子を正確にとらえ、判断し、重要な情報だけを脳に送る。

(い) ヒキガエルの武器は、舌である。それは、ぴんとのばしたゴムひものように、口から飛び出してミミズにふれたかと思うと、たちまちのうちにもどつている。

(う) あるとき、科学者が、ヒキガエルがえものをとるところをカメラに収めようとして、その前にミミズを置いた。そして、カメラをのぞくと、もうミミズはなかつた。ほかにだれもミミズにふれた者はいないし、ヒキガエルが動いた様子もないのに、ミミズはかけも形もない。

(え) ヒキガエルがミミズをとつたことは容易に推測できるのだが、その早わざのひみつを観察することができない。そこで、特別なそう置を作り、毎秒三百こまの高速カメラでさつえいした結果、やつとそのなぞが解けた。

(お) このようなヒキガエルの働きは、アメリカ・ブラジル・オーストラリア・フィリピンなど、世界の多くの国々で利用されている。

(か) 例えば、ブラジルでは、全長二十二・五センチメートルもある大きなヒキガエルが育成されており、果樹や野菜の害虫退治に大きな役わりを果たしている。

(き) ヒキガエルは、青虫・ガ・イナゴ・カ・ハエ・ナメクジ・ダニなど、農作物や家畜に害をあたえるものを、かたつばしから食べてくれる。だが、あの動作のぶいヒキガエルが、いったいどのようにしてこれらの小動物を退治するのであろうか。